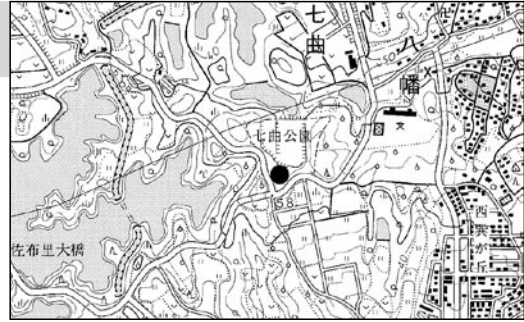


さくらがね  
桜鐘古窯群

所在地 知多市佐布里字奥茂長田  
(北緯34度57分55秒 東経136度54分1秒)  
調査理由 工業用水道事業  
調査期間 平成16年4月～6月  
調査面積 536㎡  
担当者 宮腰健司・池本正明



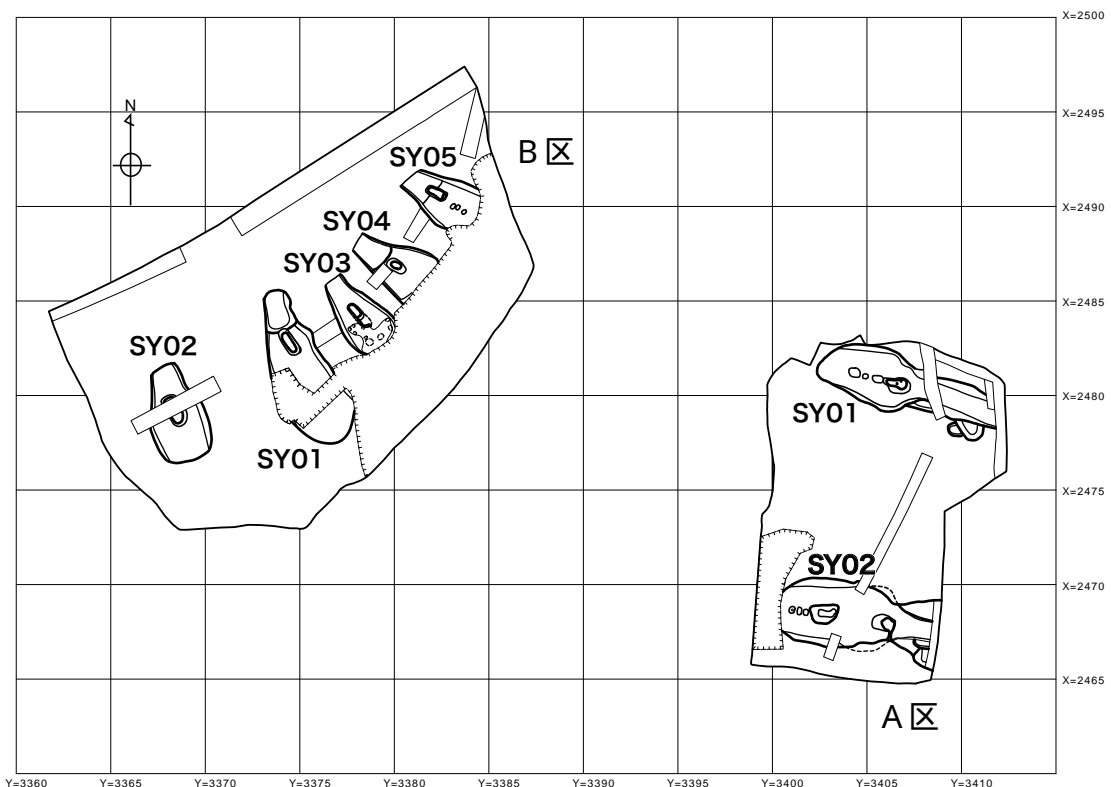
調査地点(1/2.5万「刈谷」)

調査の経過 調査は工業用水道事業に伴う事前調査として、愛知用水水道南部事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査面積は536㎡である。

調査区は、北東に向けて伸びる小尾根の頂部付近となる。調査区周辺は、工業用水道事業計画が開始される以前に、一部を除き標高60m前後に削平されていた。このため、調査は残存する斜面部のみを対象とし、南東側斜面をA区、北西側斜面をB区とした。

調査の概要 調査の結果、A区で2基、B区で5基の窯体を検出した。窯体の残存状態は良好とは言えず、いずれの窯体も燃焼室と焼成室の下半部が残存するにすぎない。

窯体構造で特徴的となるのは、A区SY02の焼成室内に設置されたいわゆる「支柱」がある。A区SY01、B区SY05の床面でもその痕跡が確認でき、ここでも設置されていた可能性が高い。また、分焰柱を焼成室側に伸ばす改修が、A区SY01・02、B区SY01・03で確認できた。このうち残存状況が良好なA区SY01でその手順を観察すると、分焰柱基底部の少し上方に直径5cm程度の杭を打ち込み、スサ入り粘土を巻き付けた直径10～15cm程度の棒状の粘土塊を作った後、これを支えとしてさらにスサ入りの粘土を貼り付けて、基底部計測で0.5m程度焼成室側に分焰柱を伸ばしている。



遺構平面図(1:400)

